

# 酒田市におけるアネハヅル *Anthropoides virgo* の

## 6羽の群れの観察記録

日本野鳥の会山形県支部 築川堅治

アネハヅル *Anthropoides virgo* の6羽の群れを観察した。6羽が同時に観察されたのは、おそらく国内初と思われるので、筆者および複数の観察者の情報をもとにして、ここに報告する。

### 観察状況

2021年5月31日、山形放送ニュースで酒田市にアネハヅル6羽が飛来していることを知った（報道の前に山形放送から当支部事務局に問い合わせがあり、断定された）。

翌日6月1日午前5時30分過ぎ、酒田市刈穂（38° 57'13"N, 139° 54'09"E）の水田にいる6羽を確認し、約3時間、観察撮影を続けた（図1）。

この日の行動範囲は、発見した場所から西、南、東方向にそれぞれ300~400m程度で、農耕車に驚き度々飛び立ったが、東を通る国道344号線を越えることはなかった（後日、行動範囲が広がり、国道344号線を越え、より南東での観察もある）。

6羽は頬の飾り羽や三列風切などから、成鳥、または亜成鳥と思われた。一部の個体は三列風切がやや褐色みを帯びていた。6羽のうち1羽は右足をけがしているようで、びっこを引いていて、そのせいか、他の5羽とはやや距離を置いて行動することも多かった。群れは主に休耕田で探餌をしており、時折、何かをついばんで食べていたが、

餌の種類はわからなかった。また、草本類（イネ科と思われる）の実をしごくようにして何かを食べていたが、何を食べていたのかは、わからなかった（図2）。

飛び立つ時に「グルル」というツル類独特の声を発したのを一度だけ聞いた。その他、カエルの鳴き声のような「ゲェゲェゲェ」「ググググッ」と小声で鳴いたのを聞いた観察者もいた。

ねぐらは調査していないため不明だった。

地元の農家の話では、5月30日には6羽が観察されていたようだった。6月4日からは、右足をけがしている1羽が単独になり、この個体の6月23日の観察が終認となった。他の5羽は、6月6日以降、観察したという情報がない。

### 分布

本種は、ウクライナ・トルコ東部から中国東北部にかけてのアジア内陸部で繁殖し、アフリカのナイル川流域・中東・インド・中国で越冬し、日本へは迷鳥として稀に飛来するとされている（桐原 2000）。また、日本へは、ほとんどは単独の飛来とされていて、モンゴルで繁殖する個体群はヒマラヤ山脈を越えてインドへ渡り、越冬することで有名だ（大西 2014）。

### 記録

本種の山形県における記録は過去1例のみで、1927年4月に旧・余目町（現・庄内町）で1羽が狩猟され、山形県立博物館に剥製が残っている。このため、今回は94年ぶり2度目の記録となる。

また、2021年の国内でのアネハヅルの記録で筆者が知り得るものは以下の通り。

- ・5月26～29日に沖縄県粟国島で1羽。
- ・6月27日～7月2日に愛媛県伊予市で1羽。
- ・7月中旬～8月中旬に福岡県糸島市で1羽。
- ・7月27日～8月29日に北海道伊達市で2羽。



図1. 6羽の群れ 2021年6月1日筆者撮影



図2. 採餌 2021年6月2日当支部会員T氏撮影

#### 参考・引用文献

桐原政志・山形則男、吉野俊幸 2009.日本の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版.文一総合出版、東京

日本鳥学会 2012.日本鳥類目録改訂第7版.日本鳥学会、三田.

日本野鳥の会山形県支部 1978～2021.ヤマセミ創刊号～97号.

本間正明 2021.山形県庄内平野にアネハヅルが飛来していたー実物資料存在から明らかになった初飛来の記録ー 山形県立博物館研究報告,39.

真木広造・大西敏一・五百澤日丸 2014.決定版 日本の野鳥 650.平凡社、東京

(2021年9月23日 記)